

## 令和8年度 第1回 学校運営協議会議事録

日時 令和8年4月24日(金)9:30~10:30

場所 下野市立緑小学校 会議室

参加者 田村 伸子 委員 小嶋 英史 委員 山中 英雄 委員 草川 奈津子 委員  
中嶋 孝子 委員 井上 江梨子委員 齋藤 篤子委員  
鈴木 寧子 校長 上野 友美 教務主任

欠席者 芋川 晴恵 教頭 室井 将男 地域連携教員

坪山 仁 地域学校協働活動推進員 海老原 忠 地域学校協働活動推進員

### 1. 開会 自己紹介

(1) 校長あいさつ

(2) 自己紹介



### 2. 学校運営協議会

(1) 任命書交付

(2) 会長・副会長の選出

会長…… 田村 伸子 様

副会長… 小嶋 英史 様

(3) 学校運営方針等について(説明)

校長:→資料参照(「下野市立緑小学校ランドデザイン」)

年度当初に職員にも同様のことを伝えました。学校教育目標については、3年目。昨年度に引き続き、「自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子供の育成」をするために、目標として「かしこく やさしく たくましく」。具体的にどんな子供像かと言うと、「学び合いよく考える子」「明るく思いやりのある子」「心身共にたくましい子」。スローガンも4年間変えていません。「元気なあいさつ 輝く瞳 みんなが笑顔 緑の子」。これを子供たちが自然と口にできるまで定着させたい。目指す学校の姿としては、子供が育って、教職員は力を合わせて協働して、保護者や地域と手を携える学校。つながりをもって、一人がたくさん頑張るのではなく、みんな少しずつ頑張って、大きな一歩を踏み出そう、という意味でスローガンも目標も変えていません。子供たちに身に付けさせたい4つの力も変わっていません。1つ新しいことは、「目指す組織力」というのを付け足している。こちらは、市の指導でもあり、働きやすい、働きがいのある職場環境作りの推進のための目標を立てるようということでした。それには、組織としての力がないとだめだと思い、「目指す組織力」というところを付けさせていただいている。こちら



は、全職員が心身の健康に留意し、自分と自分の家族を大切にしたい働き方ができるような、協力し合える組織力。職員に言ったのは、家庭もあるし、自分の健康もある。休むことだってある。「すみません」より「ありがとう」と言う言葉が交わせるような職員室にしていこう。そのためには、自分の責任を果たしていかなければいけないし、誰かのことをカバーするとか、すき間を埋めるということも必要。そういうことで組織力を高めると言う気持ちを込めて定義づけしている。こちらが新しくなったところ。学校経営の基本方針は大きく変わっていない。全ては、安心安全が大前提。最近のニュースを見ても、学校の安全が揺らぐような職員の不祥事のニュース。より危機意識の共有と危機管理体制の確立については、強く職員に伝えているところ。その他、人権教育の基盤や特別支援教育の視点ということについては、各担当者を中心に推進をしている。それを通して、教師一人一人が自分自身の資質能力の向上に努めて、授業、学級経営がしっかりとできるような職員になれるように育成を図っていききたい。本校の職員の平均年齢が昨年度よりも更に26歳と若い。これは、どこの学校も同じかもしれない。エネルギーがあって活力があって、子供との距離が近く、アグレッシブ。裏側に危うさがある。それについては、年上の者達が若者を支えながら、子供たちと良い関係が作れるように支援していきたい。どのクラスもいいスタートを切っている。今後よく見ていきたい。4番・5番が今のようなどころ。6番目としては、保護者や地域の理解を得ながら、ということで、この学校運営協議会の役割の力を発揮させていただき、学校作りにつなげてきたい。学校課題は今年度も国語を中心に行っていく。「聞く力を高めて、双方向のやりとりを通して自分の考えを再構築する」というのが昨年度まで。今年度は1歩進んで、表現するということまで、もっていきたいと考えている。今は AI の時代。自分の考えと錯覚してしまうような形で手に入れることができる。こういうことには、子供たちは、長けているので、自分の考えと錯覚してしまうことがある。AI は、使用者に寄り添った言葉を返してくれるので、これから先の世界を考えたときに課題になってくる。どこで、個性やその子らしさや学びの成果を発揮したら良いのだろう、ということ、それぞれが、深めたことをどう表現するか、ということ、表現の仕方、考えのまとめ方が課題になってくる。深めた考えをどう表現するか。今年度は、そこを研究していきたい。これは、社会に出て求められる力につながってくると考えている。8番目。これは、足したところ。働きやすく働きがいのある組織作りや協力体制の整備に努める。下の努力点につきましては、概ね変更がない。

今年度もブロックチーム制を核としてそれぞれの活動を進めていきたい。(5)が変えたところ。働きやすい働きがいのある職場環境作りの推進と言うことで、ここを付け加えた。ブロックチーム制を核とした学級学年経営。校務分掌の適切な配置と組織的、機能的な業務遂行。勤務時間の管理と在校時間の短縮。時間を超えないようにというのが市からの指令。校長としては、それぞれのライフスタイルに合わせた働き方を見守っている。一律に何時までに帰るなどのことはしていない。学校としては、勤務時間は減ってはいないが、帰りやすい雰囲気は作るようにしている。エの業務の3分類というのは、国から示されている、学校がやるべき仕事、学校ではなく、地域や保護者に任せる仕事、学校ではない仕事の3分類。なかなかそこが、

周知されていない、周知されていても、慣例により学校がやっている部分。そういうところを少しずつ見直していきたい。オについては、お互い様、気兼ねなく休み、頼み合える職場環境。カは、子供たちの様子を明るく話す職員室。いいことも悪いことも、嬉しいことも困ったことも、最後は、なんとかしよう、よかったね、と明るく話している。そういうところを継続していきたい。児童の実態については、昨年度の調査結果等から、このようになっている。少しマイナスになっているところもあるが、誤差の範囲と捉えられる。今年度もこの辺りがキープできるように教育課程を進めていきたい。下の赤字のところは、後で読んでいただきたい。一番下の部分。今年度、職員に強く強調したところ。「先生かっこいい」と思われる大人になろうと声を掛けた。「かっこいい」とは、子供が先生のことを憧れるようなこと。先生のように頑張りたい、失敗してもいいと思えたり、先生は苦手なことも挑戦していると思えたり、何かあったら助けてくれるんだと思ったり。かっこいいと思ってもらえるような大人になろうと。子供の前に堂々と立てるかどうかが、それが判断基準。誘惑に負けない、悪いことはしない。かっこいい大人になろうというのが職員のテーマ。校長が変わっていないので、概ね変わっていない。昨年度、ここでいただいた課題を改善できるように、足りなかった部分は、力が入られるように微調整して、修正して、改善できるようにしていきます。

#### (4) 学校運営についての協議・・・(司会 田村会長)

田村会長：校長先生からの具体的な説明をいただきました。学校運営方針について、忌憚のないご意見をお願いしたい。いかがでしょうか。

山中委員：AI、うっかり惑わされる。しっかり教育をお願いしたい。

田村会長：AIの技術はどんどん高まっていて、子供たちは、どんどん使いこなす。指導が難しいところですよ。

小嶋委員：ブロック制について。2年間やってみて、どうかというところ。もう1点。学力の見える化とはどういうことか。

校長：ブロックの良さ。職員の反応としては心強いとか相談しやすいとか、組織としての風通しのよさにつながっている。授業については、時間割を作ることは大変だったが、算数など、ブロックでTTの授業ができるようにした。協力できることで、授業をやる上での厚みがでた。場合によっては、欠席が続いて進度が遅れている子の指導が、保護者の了承を得て、できるようになった。教育相談の関係で言うと、担任ではないブロックの職員に相談するようなケースもあった。ブロックの先生にも相談できる、と保護者の方に思っていたということだと思う。担任の先生にも共有してください、という内容だった。保護者にもブロックのよさとしていろいろな先生に相談していいんだな、と思っただけしている。情報の共有、特に、子供の情報の共有など、連携の難しさはある。毎週木曜日は、ブロック打合せの日としている。ホワイトボードにも示し、皆に分かるように位置づけられている。ブロック打合わせの日でなくても相談する姿が見られるようになっている。

時間割を組む難しさはあったが、ブロックの良さが感じられている。情報共有は一番の課題。連携するところがうまくいかないと指導がうまくいかない。

小嶋委員：若い先生にとっては、こういう制度は、経験値が上がる。

校長：そうなんです。去年は、2年目と1年目で学年を組んでいた。今年も5年生は、1年目と4年目。ただ、そこに経験のあるブロック主任を付けている。座席も話しやすいように工夫をしている。どこの学校でも通用するような経験値になっている。一方で、主任に仕事が集まってしまう。若い先生方からの相談も多く、自分の仕事にたどり着くまでに時間がかかってしまう、という現状もある。ただ、そこは上手に、気持ちよくやってくれている。

学力の見える化。昨日、6年生が全国学力・学習状況調査、5年は、とちまるチェック、というタブレット端末で実施する学力調査があった。夏頃までに、個人の結果、学校全体の結果、県との比較、全国との比較など、学習状況についての把握ができる。前年度と比較、分析をすること。それが見える化。8月か9月の学校便りで配付している。

田村会長：その他、ご意見、ご感想を。

中嶋委員：ブロック。先生方にやりやすくなっていると感じた。若い人も気持ち楽になっているのではないか。組み方は？

校長：1・2年生を低ブロック、3・4年生を中ブロック、5・6年生を高ブロックと分けている。

中嶋様：生徒の数が少ないから、先生方も子供の様子がお互いに分かり合えるということもありますね。

校長：1・2年生は、全く同じ時間割にしている。特に生活科は合同でやるなど。合同でできる時間割にしている。

中嶋様：それで、時間割を組むのが大変だったということですね。

井上委員：今朝、今年卒業した次男を怒ることがあり、そのまま長男にもとばかり。大したことではないのに怒ってしまった。先生達も忙しい時、心に余裕がない時があるのではないかと。子供のふとした言葉に、そこまで反応しなくてもよかったと思うことがあるのではないかと。子供たちの環境は数年前と全然違って、学校の先生が間に入って解決しなければならないこと？と思うことまで、先生が介入している。保護者の間も、お互いに知らないための不信感というのがある。今年度、保護者も入れる、音楽音読集会、給食試食会、など、学校に来る機会が増えることで、先生への信頼が増すと思う。それが、先生方の働き方改革になればよい。先生、というのは、子供たちの学校環境を大きく占める部分。保護者の学校の先生への理解、信頼が増すこと、信頼関係が築けることで、先生の負担が減るといいな、それが働き方改革になるといいなと思う。

田村委員：昨年度のPTA会長井上様のお陰で、保護者の給食試食会も実現したわけですからね。何でもかんでも学校のせいにする。学校におんぶにだっこ。先生のせいにするのではなく、保護者ももうちょっと、考え方を柔軟に取り入れてほしい。AI やライ

ントラブルなど学校の責任になることがあるが、保護者も監督しなければならないと感じている。

井上：学校に来る機会がないので、保護者同士が顔を知らない。保護者同士で話せばいいようなことも、学校を通して話すようになる。

田村委員：仕事の関係でお家の方も忙しいでしょうが、年に何回もあるわけではない保護者会など、参加するようにしたらよいと思う。自分の子供の様子を見に来る気持ちがないとだめだと思う。

小嶋委員：授業参観や保護者会など、昔よりお父さんは増えているように思いますけどね。来るところは来るし、来ないところは来ない、という感じなのでしょうかね。

田村委員：来ないようなお家に限って・・・というところもある。どのように啓発したらよいか。

校長：どうしたら来てもらえるか、というところを考えている。試食会だったら、子供が発表すると言えば来てもらえるか、懇談会も教師がただ話すだけではなく、保護者同士のやりとりがある形もいいかな、など話している。その時は、参加できなくても、様子を聞いた保護者が次は参加してくれるかもしれない。じわりじわりと進めている。

中嶋：地域のつながりが希薄になっているので、学校の役割というのがますます重要になってきている。大変になっている。頑張りどころ。子供会も育成会もなくなっている。希薄になっている。お互いの子供の話をする機会がない。学校の負担が重たくなる。

校長：できるだけ、外に出向いて顔を知ってもらおうようにしている。発信もして。でも、受け取るというところまでつながらない。それはこれからの課題。

齋藤委員：来年度から給食はセンターになるとのことだが、試食会は、それでも続くのか？

校長：緑小での給食のうちは、ということで進めている。今後については不透明。

草川委員：保護者が学校に興味を持てる、というのは、子供の話が一番。子供が親に来てもらいたと思えば、来てくれるのではないか。

校長：音楽・音読集会がそういう場になるといいが。日頃の発表の場なので、短い時間で終わってしまうところがある。それでも、子供にとっては、見てもらえることは嬉しいのではないか。

田村：子供が親に来てと言ったら、親は行かなきゃ、と思う。子供が言うのが一番。

小嶋委員：AIの話。小学校の方針としては、どういう風に指導するなど、具体的に考えていることはあるか。

校長：AI活用の指導指針ということではない。大きく分けて、タブレットの使い方。タブレットを使うのは、社会科や総合的な学習の時間が多い。調べたそのままを張り付けることはダメ、という言い方をしている。タブレットは教材だから、分からないことを調べるために使う。それは、自分の考えではない。学校の勉強では、それを参考にして、自分の考えを深めていく。そのまま写してはしてはダメだよ、と言っている。しかし、写しているから、いざ、発表となったら読めない。

齋藤：夏休みの宿題の感想文等も見分けがつかないかもしれない。

校長：見分けがつかないかもしれない。今のところ、緑小ではないが、今後懸念される。

小嶋：基本的には大学と同じ。見分けることは難しい。大学では、分かった場合は、不正行為として、退学・停学など、処分という扱いになる。

齋藤：そこで、必要となるのは、表現力、ということですね。

校長：今年は、そういうことで学校課題としている。AIに負けていけない。

#### (5) 学校運営について承認

※令和8年度学校運営の基本方針が、委員の総意として承認されました。

#### (6) その他(事務連絡)

##### ○今後の予定

・第2回学校運営協議会 ……7月1日(水)12:30~15:30

給食試食会、授業参観(校舎内の点検)及び話し合い

・第3回学校運営協議会 ……2月1日(月)14:00~15:30

学校評価、職員との懇談会

☆二中学区学校運営協議会 ……9月17日(木)緑小学校にて

※詳細は決まり次第お知らせいたします。

##### ○その他の学校行事について。皆様に出席していただきたいもの。

・9月30日(水)……下野市児童表彰式(9:00~9:45)

・10月31日(土)……運動会(午前のみ) :雨天11月1日(日)順延

・3月18日(木)……卒業式